

# 全体目次

はじめに

原口剛

i

凡例

vi

## 『抗日パルチザン参加者たちの回想記特選集』

1

(解説) 翻訳と連帯—ある日雇い労働者の軌跡—

原口剛・森田和樹

299

(解題) 翻訳と編集という行為をめぐって

板垣竜太

260

付録資料

241

一、以下に続く『抗日パルチザン参加者たちの回想記特選集』は、編訳者である鈴木武が自ら縦書で編集したファイル（「原ファイル」と呼ぶ）を、原則としてそのまま組んだものである。以下の点に留意されたい。

①鈴木は『回想記』の各話を一三種のカテゴリに分けていているが、本書ではそのうち七カテゴリから選ばれている。各カテゴリ内の各話はタイトルの五十音順に並べられている（詳細は「解題」を参照）。

②区切り符号は原ファイルのママとした。たとえば日本語の区切り符号では、感嘆符「！」のあとに三点リーダー「…」が来ることは一般にない。しかし原典（朝鮮語）では、そうした符号を使っている箇所があり、鈴木はそのニュアンスを活かすために、日本語訳でも原典と同様に符号を付している。本書では、こうした符号も全て鈴木の判断を尊重した。なお、鈴木は翻訳の省略はおこなっていないので、省略した意味で「…」を用いることはない。

③鈴木は統一性や読みやすさといった観点から人名、地名を原則としてカタカナ表記している。本書ではそれをそのまま踏襲する代わりに、その原語（朝鮮語）表記および漢字表記については、本書の「解題」付表3・4にまとめた。合わせて参照されたい。

④その他にも、鈴木はいくつかの朝鮮語をそのままカタカナ表記している。「トナム」は同輩や後輩を中心に幅広く使える敬称である（「同志」は目上の人に用いることが多い）。「オモニ」は子どものいる女性全般を指し、呼称としても用いられることがある。

二、いくつかの点においては、原ファイルに変更を加えた。

①原ファイルでは各話が番号が振られていなかったが、読者の便宜のために1〜28の章番号を振った。

②原ファイルでは、各話の最初に『抗日パルチザン参加者たちの回想記』の第何巻第何話であるかが記され、各話の最後に鈴木がファイルに入力し終えた日付が記されていたが（一部欠落）、それは本書の「解題」付表1に、他の情報とともにまとめて特選集の本文からは外した。

③A5判縦書で可読性を高めるために、編訳者と相談のうえで、本文を二段組とした。

④原典にある丸括弧（ ）と鈴木自身による訳注を区別するために、後者は亀甲括弧（ ）に変更した。